

なぜ、学びの自律化・個別最適化か？ ～目的をおさえる～

横浜創英中学・高等学校長 工藤 勇一

【OECD Learning Framework 2030】

【個人の Well-Being】

人が社会の中で
よりよく生きていく



【社会の Well-Being】

よりよい(持続可能な)
社会をつくる



2030年

人口爆発

食糧問題

環境問題

.....

.....

.....



どの問題も
利害の対立が起こる
解決は簡単じゃない

人類は岐路に立つ

自国だけでは問題解決できない時代に！

2015年
国連で採択
世界161力国

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

17の開発目標



【OECD Learning Framework 2030】

【個人の Well-Being】

人が社会の中で
よりよく生きていく



【社会の Well-Being】

よりよい(持続可能な)
社会をつくる



当事者意識

ますます自己決定する力が必要

なのに・・・

若者の「国や社会に対する意識」

	自分を大人だと思う	自分は責任がある 社会の一員だと思う	将来の夢を持っている	自分で国や社会を 変えられると思う	自分の国に解決したい 社会議題がある	社会議題について、 家族や友人など周りの人と 積極的に議論している
日本	29.1%	44.8%	60.1%	18.3%	46.4%	27.2%
インド	84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%	83.8%
インドネシア	79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%	79.1%
韓国	49.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%	55.0%
ベトナム	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%	75.3%
中国	89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%	87.7%
イギリス	82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%	74.5%
アメリカ	78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%	68.4%
ドイツ	82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%	73.1%

国:

日本

総合順位
子どもの幸福度



20

精神的幸福度

37

順位

身体的健康

1

スキル

27

総合順位
政策・状況



17

順位 (政策)

社会

7

教育

23

健康

34

順位 (状況)

経済

11

社会

29

環境

18

順位

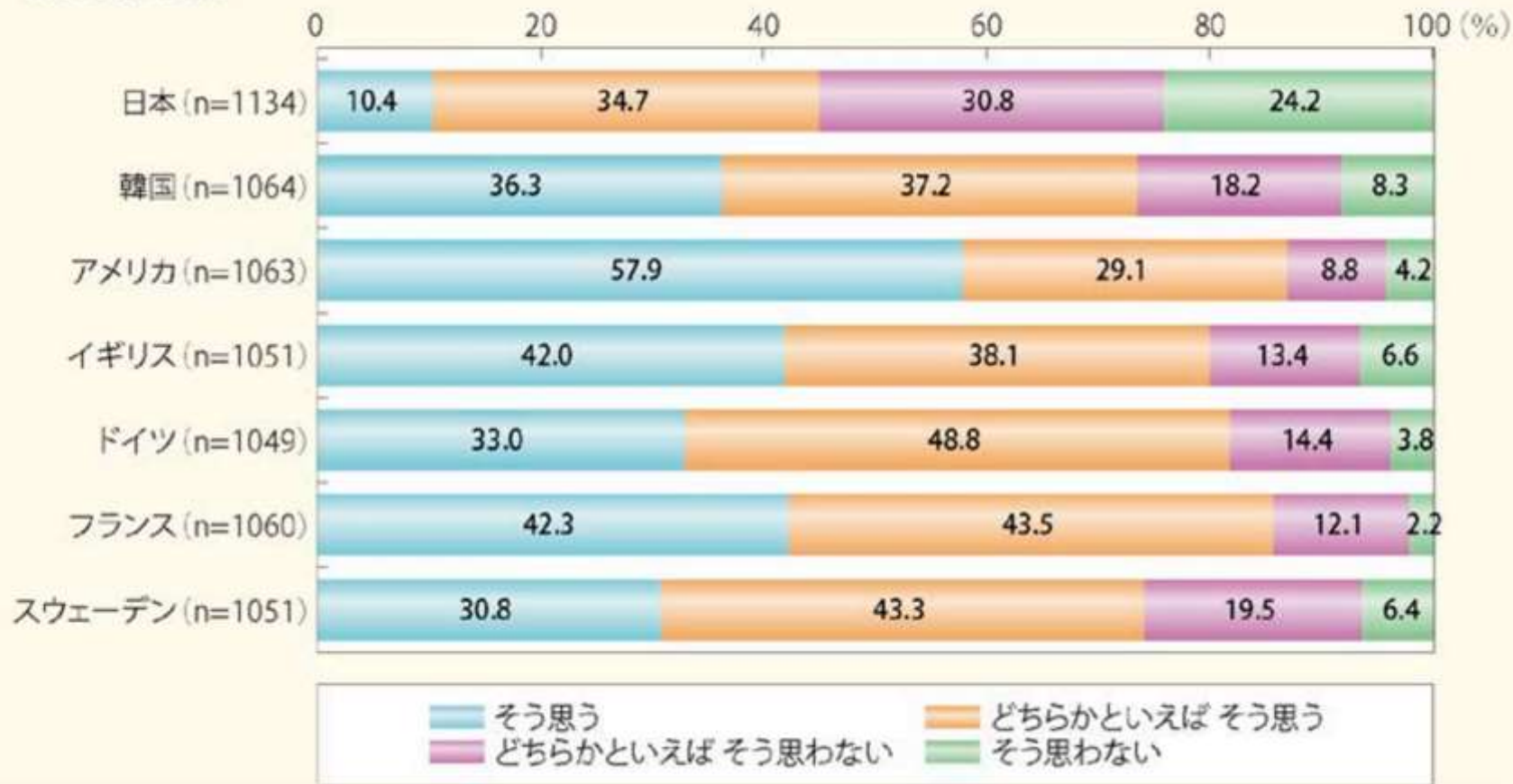
- 上位グループ
- 中位グループ
- 下位グループ

図表3

自分自身に満足している

内閣府 2019年版「子ども・若者白書」から

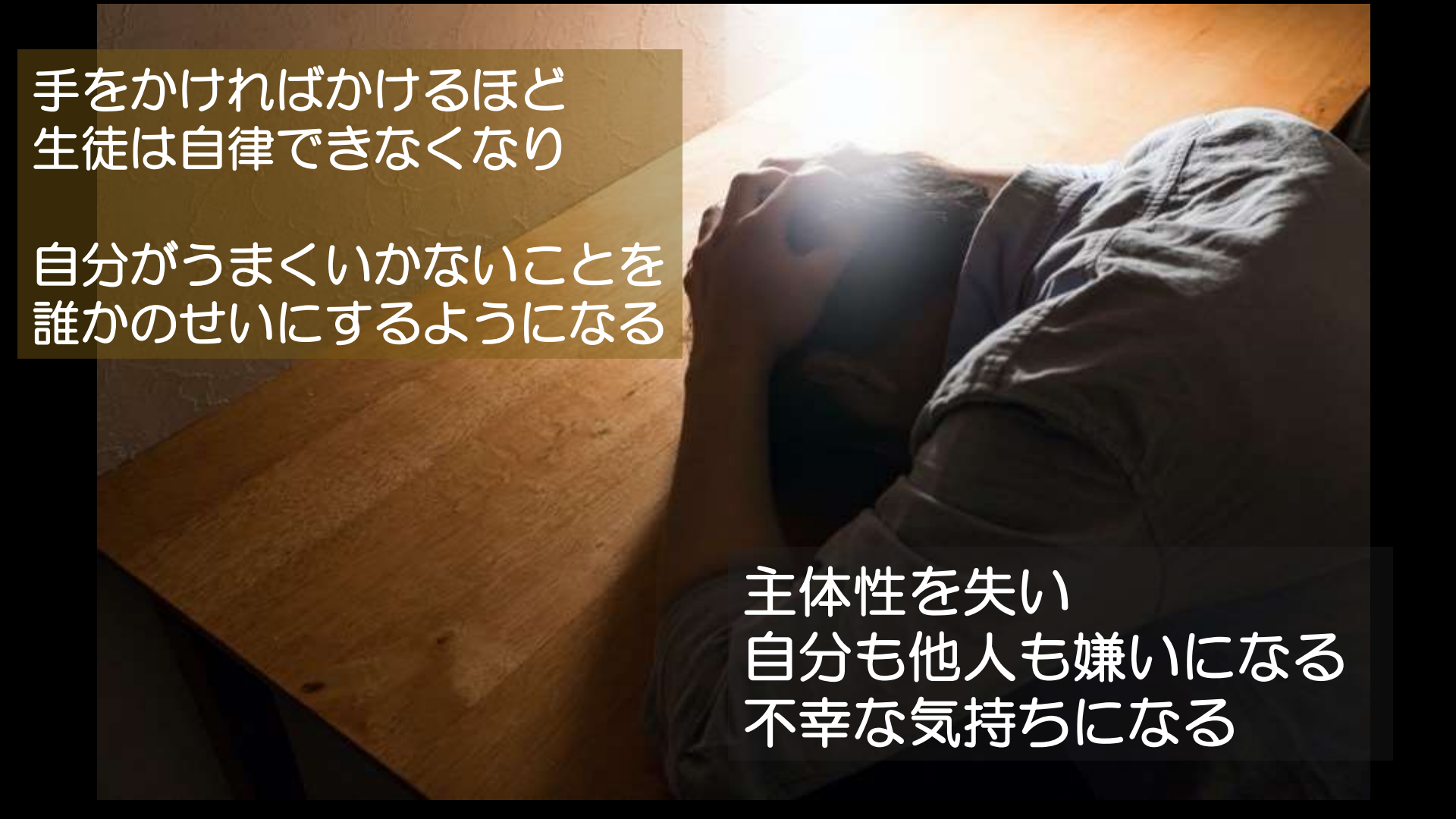
(a) 諸外国比較



人は与えられることに慣れていく

（サービス産業化した教育）



A photograph of a person lying down, possibly on a wooden floor or table, with their head buried in their hands. The lighting is warm and dim, creating a somber and reflective mood. The person is wearing a light-colored, long-sleeved shirt.

手をかければかけるほど
生徒は自律できなくなり

自分がうまくいかないことを
誰かのせいにするようになる

主体性を失い
自分も他人も嫌いになる
不幸な気持ちになる

主体性を失う

幸福度の低さ

与え続ける教育

当事者意識のなさ

自己肯定感の低さ

目的 自律した生徒を
育成する

生きる力



手段の目的化

目的 基礎学力を
身につけさせる

徳育

豊かな人間性

知 育

確かな学力

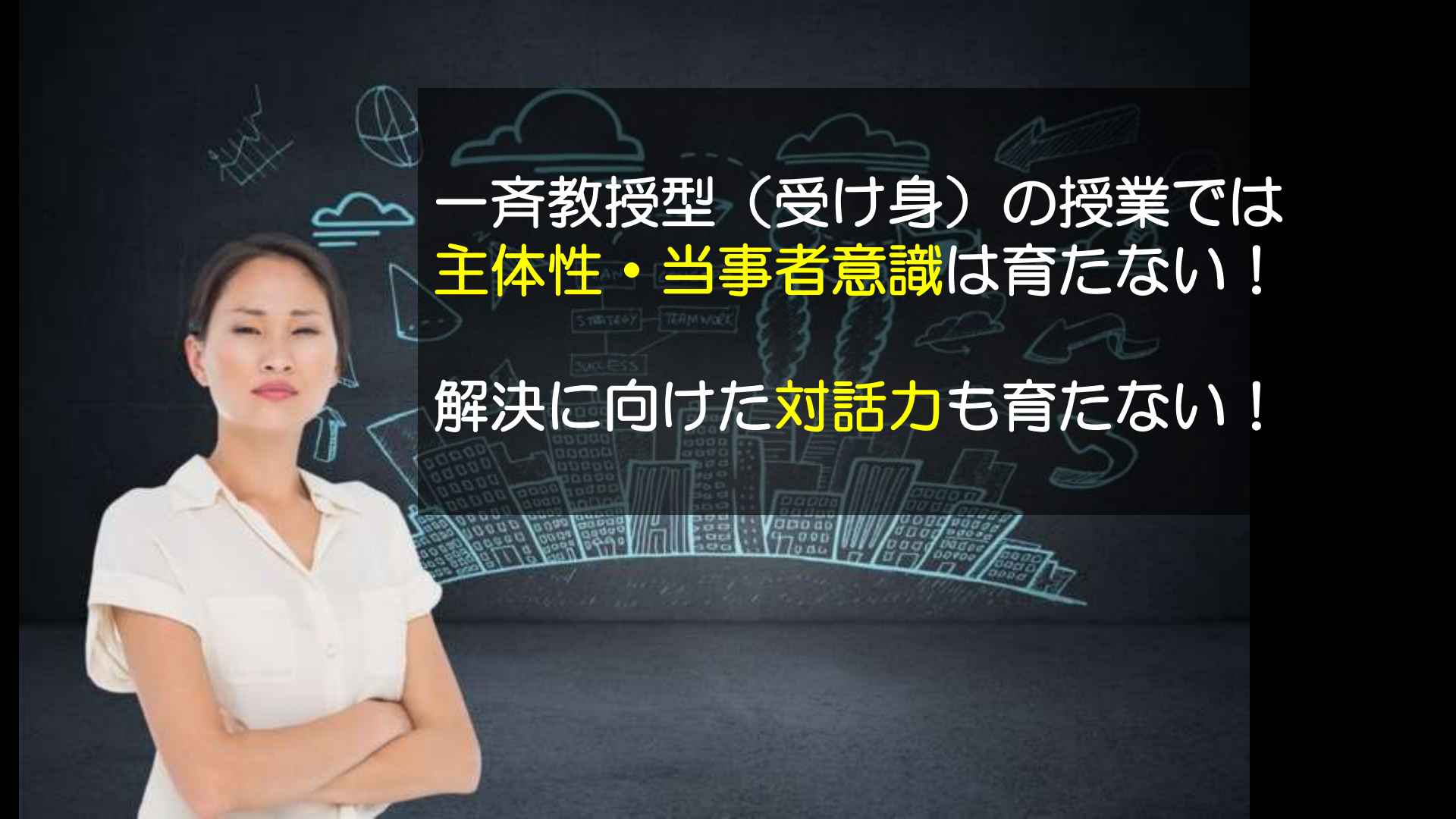
体育

体力・健康

〈これまでは**教師**の立場から見てきた〉

1. 何を教えて（カリキュラム）

2. どう教えるか（教え方）

A woman with dark hair, wearing a light-colored short-sleeved button-down shirt, stands with her arms crossed on the left side of the frame. The background is a dark chalkboard filled with white chalk drawings. These include a city skyline at the bottom, a flowchart with boxes labeled 'STRATEGY', 'TEAMWORK', and 'SUCCESS' in the middle, and various abstract shapes like clouds, a globe, and arrows at the top. The text is overlaid on the right side of the chalkboard.

一斉教授型（受け身）の授業では
主体性・当事者意識は育たない！

解決に向けた**対話力**も育たない！



〈これから**学習者主体**で〉

LEARNING

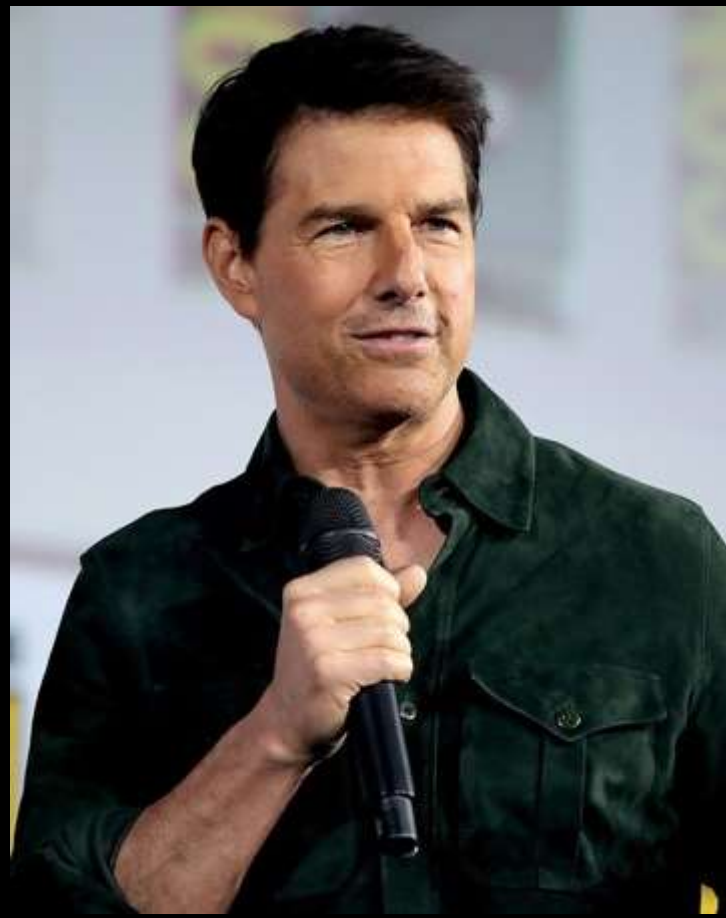
1. 何を学んで（カリキュラム）
2. どう学ぶか（学び方）

五年生男児のノート

夏と冬で降水量が逆なのはなぜ
考えよう。

季節風は季節によって決まる。日本
向に吹く風のこと

学びのスタイルは人それぞれ異なる



五年生男児のノート

夏と冬で降水量が逆なのはなぜ
考えよう。

季節風は季節によって決まる。日本
向に吹く風のこと

P C 五年生男児のノート 利用（数日後）

9月7日（月）単位量あたりの大きさ②

速さを求める式

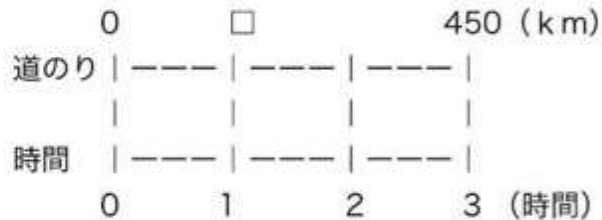
 速さ＝道のり÷時間

めあて

どちらが速い？

・はくたか号→450kmを3時間

・ひかり号→366kmを2時間



はくたか
 $450 \div 3 = 150$
 A、150km進む

ひかり
 $366 \div 2 = 183$
 A、183km進む

× 3

→

□km | 450km

----- | -----

1時間 | 3時間

→

× 3

 時速…1時間あたり |

分速…1分あたり |

秒速…1秒あたり |

に進む道のり

で表した

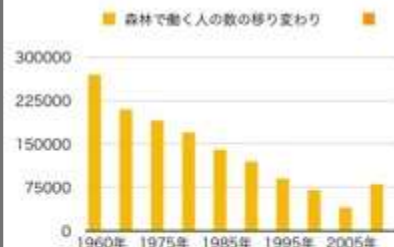
速さ。

五年生男児のノート P C 利用（半年後）



東京都森林組合の話

木を植えて切り出すまでには、多くの作業と50年以上の長い年月がかかります。
この仕事は、山のきつい斜面で大きな木を切ったり運んだりします。
少しでも気を緩めると大きな事故につながるので注意して作業をしています。
また、この地区の森林は杉やヒノキが多く毎日たくさんの花粉が発生しています。
そこで大きくなった杉やヒノキをきって多摩産材として活用し、新たに花粉の少ない杉を植えて花粉の少ない森林に変えています。



昔と比べて、木材に代わる材料が増えたことで木材自体の利用が減っています。
また、外国の木材との競争などにより安くなりすぎたため木が切られなくなっています。
そのため、日本では昔と比べると林業で働く人が少なくなり高齢化も進んでいます。

二酸化炭素排出量 1990年

● 中国 ● アメリカ ● EU ● インド ● ロシア ● 日本 ● その他



めあて

グラフから計算しよう

1990年（全体）205億t
日本→割合 $5.1\% = 0.051$
 $205(\text{億}) \times 0.051 = 10.455$
A 10.455億t

2016年（全体）323億t
日本→割合 $3.5\% = 0.035$
 $323(\text{億}) \times 0.035 = 11.305$
A 11.305億t

二酸化炭素排出量 2016年

● 中国 ● アメリカ ● EU ● インド ● ロシア ● 日本 ● その他



1990年（全体）205億t
中国→割合 $10.3\% = 0.103$
 $205(\text{億}) \times 0.103 = 21.115$
A 21.115億t

2016年（全体）323億t
中国→割合 $28.2\% = 0.282$
 $323(\text{億}) \times 0.282 = 91.086$
A 91.086億t

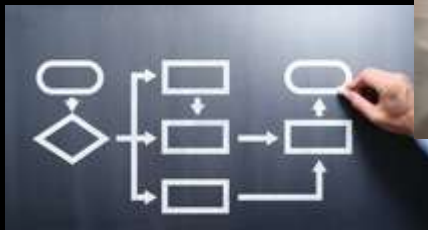
3月1日(月)データの活用

めあて

データを読み取り気付いた事を話し合おう。



学び方 = 将来の働くスタイルに





〈これからは**学習者主体**で〉

LEARNING

1. 何を学んで（カリキュラム）
ICTテクノロジー
2. どう学ぶか（学び方）